

## 議 事 の 経 過

| 発 言 者   | 議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項                                                                                                     |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 古谷野委員長  | <p>それでは、ただいまより議事に入ります。</p> <p>最初に、高齢介護課の小泉さん、そして市社協の大川原さんからご説明をいただきますと思います。</p>                                             |
| 事務局     | <p>(1) 生活支援体制整備事業－地域包括ケアシステム構築に向けて(説明)</p> <p>上尾市の地域包括ケアシステムの構築に向け、目指す姿について説明。</p>                                          |
| 古谷野委員長  | <p>生活支援体制整備事業を実施するにあたり、市と市社協との協力関係について説明していただきたい。</p>                                                                       |
| 事務局     | <p>市と市社協の関係についてですが、市は生活支援体制整備事業を市社協に業務委託しています。</p> <p>市の役割は、市社協が地域の現状や課題を調査し、市に報告していただき、その報告をもとに事業を検討することです。</p>            |
| 大川原課長補佐 | <p>令和7年度生活支援体制整備事業について、第1四半期報告会にて、今年度進める第2層コーディネーターの取組について説明。</p>                                                           |
| 古谷野委員長  | <p>説明の中で「第1層」「第2層」の生活支援コーディネーターという言葉が出てきましたが、その意味を説明してください。</p>                                                             |
| 事務局     | <p>第1層生活支援コーディネーターは、上尾市全体の現状を把握し、地域課題を検討する役割を担っています。</p> <p>また、第2層生活支援コーディネーターは、圏域ごとの現状や課題の把握、地域づくりに向けた社会資源の発掘等を行っています。</p> |
| 大川原課長補佐 | <p>趣味活動と移動について説明。</p>                                                                                                       |
| 小島委員    | <p>平方圏域内の丸山団地で、施設の車両の活用について打診があるとのことですが、これは車両だけでなく、運転する人員についても施設側に打診する、という解釈でよろしいでしょうか。</p>                                 |
| 大川原課長補佐 | <p>ご質問ありがとうございます。これから発信する段階であり、その点については調査しながら進めていく予定です。</p>                                                                 |
| 小島委員    | <p>介護施設やデイサービスは朝と夕方に車の利用頻度が高く、昼は車両が空いて</p>                                                                                  |

|         |                                                                                                                                                                                                             |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | <p>います。ただし人員配置には各施設とも苦慮しているため、その点を考慮して質問しました。</p>                                                                                                                                                           |
| 古谷野委員長  | <p>圏域内の介護関連施設から協力を得ること自体は悪い発想ではありませんが、介護施設はいずれも人員的に手一杯の状況です。</p> <p>さらに、車両を保有していても、買い物ツアーに適した車両であるかは微妙な場合もあります。</p> <p>仮に協力を得られたとして、費用やリスク管理はどのようにお考えでしょうか。</p>                                             |
| 大川原課長補佐 | <p>その点も懸念しており、他市町村の事例をこれからヒアリングする予定です。平方圏域は施設数も比較的多いため、その点も含めて検討していきます。</p>                                                                                                                                 |
| 古谷野委員長  | <p>実現できれば良い一方で、課題も多い印象です。</p> <p>ただ、実現に向けては複数のハードルがあるのは確かですが、それらを抱えながら地域の多様な主体（団体・施設等）と協議を進めること自体が、地域包括ケアシステムづくりの一部だと思います。成果が出ればもちろん良いのですが、その過程を地域づくり・地域包括ケアシステムづくりと捉えて取り組むことで、不必要な失望を避けられるのではないのでしょうか。</p> |
| 秋山委員    | <p>上平支部で「助け合い上平」という活動があり、買い物や通院の支援をしています。</p> <p>この取り組みと、市社協が説明した平方圏域での取組の違いや関連性はありますか。</p>                                                                                                                 |
| 大川原課長補佐 | <p>社協平方支部でも、上平支部と同様の助け合い活動ができればと考えていますが、自治会ごとに考え方が異なります。まずは取り組みやすい丸山団地にお声掛けしているところです。丸山団地でうまくいけば、他の圏域にも情報提供しながら一緒に進めていくつもりです。</p>                                                                           |
| 古谷野委員長  | <p>秋山さんからご指導いただくことは可能でしょうか。</p>                                                                                                                                                                             |
| 大川原課長補佐 | <p>機会があれば、ぜひ教えていただきたいと思います。</p>                                                                                                                                                                             |
| 古谷野委員長  | <p>地域によって条件に差があり、ある地域でできたことが他の地域では必ずしも実現しない可能性があります。</p> <p>しかし、地域間で情報交換ができれば有益です。社協として、そうした仕組みを用意していますか。</p>                                                                                               |

|         |                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大川原課長補佐 | 支部長が集まる「支部長会議」を有効活用したいと考えています。13 支部で取組状況が異なるため、生活支援体制整備事業が少しずつ整えば、情報交換の仕組みに組み込んでいきたいと思います。                                                                                                                                             |
| 古谷野委員長  | 支部長会議では他にも議題が多いと思いますが、助け合いに関する議題・課題を共有する会を試行的に開いてみてはどうでしょうか。既に実施しているところ、これから取り組みたいところに参加を呼びかける形で、集まる機会をつくるのはどうでしょうか。                                                                                                                   |
| 大川原課長補佐 | ありがとうございます。努力いたします。団地で助け合いを行っているので、その情報交換会は実施したいと考えています。現在、総合福祉センターの建て替えにより場所の確保ができていませんが、実施したいと思います。                                                                                                                                  |
| 古谷野委員長  | ほかにご意見のある方はいらっしゃいますか。                                                                                                                                                                                                                  |
| 大崎委員    | 先ほど施設に依頼するとのことでしたが、委員長がおっしゃった人的配置などの課題もあると思います。社会福祉法人の施設は地域・社会への貢献が目的の一つでもあります。いくつかの施設が交代制で「お試し買い物ツアー」を実施し、連携づくりを進めながら、施設と丸山団地の住民の方々との助け合いで買い物支援ができると良いと感じました。                                                                         |
| 小野委員    | 打診を受けている施設の者です。課題が山積していることは承知しています。費用面やリスク、保険関係など課題は多くありますが、実際に困っている地域が近くにあるため、社協さんと協力しながら、できるところから挑戦していきたいと思います。進捗があればご報告いたします。                                                                                                       |
| 古谷野委員長  | 課題は多数ありますが、重要なのはどう前進するかという点です。                                                                                                                                                                                                         |
| 大川原課長補佐 | 【相談】認知症にやさしい地域づくりの取組について説明                                                                                                                                                                                                             |
| 大崎委員    | <p>認知症のご家族やご本人と関わっていますが、認知症の理解や支援の仕方がなかなか広まりません。</p> <p>所属する会の電話相談でも、ご家族だけでなくご近所や知人に支援を求めることで楽になるのでは、という声がありますが、どのように支援を求めればよいか悩む方が多いです。</p> <p>また、家族や介護者も含めた「集い」があると違うのではないかと感じています。</p> <p>上尾でも介護家族会や、最近は若年層向けのカフェを毎月 1 回定期開催してい</p> |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | <p>ます。各支部でチームオレンジのような活動も実施していますが、まだ気軽に「手伝いたい」と踏み出せない方がいると感じています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 大川原課長補佐 | <p>「認知症になりたくない」という思いから住民向け講座に参加したいという声も多いです。まずは各種講座に参加いただき、興味関心があれば継続して参加できる仕組みづくりを進めたいと考えています。</p>                                                                                                                                                                                                                                       |
| 定方委員    | <p>居宅支援事業所は要介護 1～5 の方を担当しています。認知症の方が増え、支援の幅も広く難しさを感じます。最近では若い方の認知症も増え、ご自身で「認知症です」と話される方が増えた印象です。地域での勉強会などにより、認知症が身近になり学ぶ場があるからだと思います。市が事業を広めて認知症の理解が進むと、ケアマネ業務での説明負担が軽減され、介護保険の利用ハードルやイメージも改善されると考えます。</p>                                                                                                                                |
| 小島委員    | <p>包括ではオレンジカフェ等で、認知症初期集中支援チームからお話ししてもらい、「認知症は誰しもなり得る」と伝えています。</p> <p>多くの方は「認知症になったらどうしよう」という不安から講座に参加されません。不安を払拭できるよう、初期集中支援チームが講座を実施しています。</p> <p>また、若年性認知症や MCI の方など、早い段階から予防的に関わる方が増えるといいと思います。介護保険料は 40 歳からの負担となるため、その段階で若年性認知症や MCI に関する知識を 40 代から得られるといいと考えます。加齢に伴う物忘れが増える前に準備できるよう、例えば MCI チェックリストを 40 代に配布するなどの取組があるとよいと感じます。</p> |
| 古谷野委員長  | <p>MCI や若年性認知症が広く知られるようになってきたのは基本的に良いことですが、一方で恐怖感をあおる面もあります。</p> <p>しかし、恐怖感を乗り越え「発症してもできることがある」「備えとして今できることがある」といった視点が地域で共有されると、認知症にやさしい地域づくりにつながるのではないのでしょうか。</p>                                                                                                                                                                        |
| 岡林委員    | <p>続いて 2 点質問があります。</p> <p>1 点目は、認知症ケアパスの活用機会が増えているため、古谷野先生のお話のように「いつ」「どこで」「どのような支援があるか」を自治会で周知いただけると良いと思います。併せて、記載内容が実行されているか点検が必要です。紹介されている支援が機能していないと、認知症にやさしい地域づくりは進みません。ケアパスに落とし込み、関係者がそれぞれのステップに応じた情報提供を行えると、上尾市としてのチェックにもつながると思います。</p> <p>2 点目は、相談手続きで挙げられた訪問型サービス B 事業について、他の地域</p>                                               |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | でも新規申請が可能か確認したいです。総合事業の利用可否が第 2 団地に限られるのかによって、相談の仕方が変わる可能性があります。今後の展開はいかがでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 大川原課長補佐 | 訪問型サービス B は、すでに秋山委員の「助け合い上平」が申請しています。その後、鮫島委員が所属する西上尾第二団地支部でも申請に至りました。市からも説明をお願いします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 事務局     | <p>訪問型サービス B・D についてですが、言葉だけでは分かりにくい点があります。</p> <p>訪問型サービス B は、国の介護予防メニューの一つで、地域住民や NPO が要支援者に対して生活支援サービスを提供するものです。具体的には、家事支援や草刈りなどの生活支援です。</p> <p>訪問型サービス D は移動支援で、車の乗降を支援します。</p> <p>大川原さんの説明のとおり、西上尾第二団地では今年度から訪問型サービス B・D を利用しており、助け合い上平でも利用いただいています。</p> <p>また、サービス B についてはシルバー人材センターが上尾市全域で支援しています。サービス D は春日地区で実施する団体があります。</p> <p>今後の展開としては、使いにくさが課題です。</p> <p>第一に、対象が要支援者に限られる点です。市は団体の取組に補助していますが、あくまで総合事業の要支援者が対象です。例えば、対象高齢者が 10 人で要支援者 6 人・非認定 4 人の場合は 50 万円＋αを交付できますが、要支援者 4 人・一般 6 人のように逆転した場合は人数按分となり、年度末まで補助額が確定しにくいという難しさがあります。</p> <p>第二に、サービス提供者が住民（多くは高齢者）である点です。特に移動支援では車の運転を伴うことが多く、高齢運転のリスクがあります。</p> <p>このため、サービス B・D の展開は市内の一部地域にとどまっています。</p> <p>ただし、今年度当初に社協と協議し、市内で高齢者生活支援サービスを実施している団体数を把握できていないという課題を共有しました。生活支援体制整備事業を活用して市内の団体を把握し、その中でサービス B・D の対象となる団体にアプローチして補助金の活用を促す説明を行う予定です。</p> <p>把握した情報は、市および社協のホームページに掲載し、包括支援センターやケアマネにも展開して周知します。</p> <p>今年度中に取りまとめ、3 月の本会議で報告できればと考えています。</p> |
| 大川原課長補佐 | 【その他事項】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 佐<br>古谷野委員長 | ゲームは何をやっていますか。今見えたのは『太鼓の達人』のようでしたが。                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 大川原課長補<br>佐 | パズルゲーム、リズムゲーム、ボウリングゲームを行っています。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 古谷野委員長      | その他、全体としてご意見のある方はいらっしゃいますか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 西村委員        | この生活支援事業に含まれるか不明ですが、昨年 4 月から上尾警察署の警察医を拝命しています。業務は、亡くなられた方が病院に搬送されない場合に事件性の有無を鑑別することです。昨日は 4 名の検死を行いました。独居の方が多く、発見まで 2～3 日のケースもありますが、この時期は 1～2 週間というケースが多いです。発見は腐敗臭の通報、郵便物や新聞の滞留などによります。同居でも片方が認知症の場合、亡くなって 1 週間経過しても気づかれないことがあります。ご近所同士の見守り・助け合いがあれば孤立死は減らせると考えます。生活支援体制整備事業に含まれない可能性はありますが、市や社協が独居高齢者の見守りに関与していただければと思います。 |
| 古谷野委員長      | 事務局で情報提供していただけますか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 事務局         | <p>安否確認については、市にご連絡いただければ、単身高齢者調査や世帯調査、介護に関する情報、緊急連絡先となっている親族・関係機関への連絡により安否確認を行います。</p> <p>また、「上尾市見守り支援ネットワーク」がございます。新聞販売店や配食事業者等に登録いただき、高齢者の異変があれば市へ報告していただく仕組みです。これらの制度を活用し、多層的な見守りで孤立死を防いでいきたいと考えています。</p>                                                                                                                |
| 古谷野委員長      | <p>自治体によって対応策は様々です。電話連絡を行う自治体もあり、その際は対象（低所得者、単身者など）の設定方法、使用機器の有無、機器貸与の有無等に違いがあります。</p> <p>杉並区では一定条件に達した方に年 1 回の調査を行うなどの取組もあります。こうした仕組みづくりは社協の役割の一部でもあり、地域包括ケアシステムの重要な要素です。</p> <p>本日は生活支援体制整備事業に焦点を当てましたが、より広い観点での論点整理も必要な時期に来ていると、西村先生の問題提起を受けて感じました。</p>                                                                  |